【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【公表番号】特表2012-508254(P2012-508254A)
【公表日】平成24年4月5日(2012.4.5)
【年通号数】公開・登録公報2012-014
【出願番号】特願2011-535724(P2011-535724)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　45/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/28　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/08　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/24　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/16　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/14　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/30　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　27/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 9/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 7/06　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/14　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/16　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 3/10　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　48/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/439　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/06　　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 453/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｐ　43/00　　１１１
Ａ６１Ｐ　25/00
Ａ６１Ｐ　25/28
Ａ６１Ｐ　25/08
Ａ６１Ｐ　25/24
Ａ６１Ｐ　25/16
Ａ６１Ｐ　25/02
Ａ６１Ｐ　25/14
Ａ６１Ｐ　25/30
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　29/00
Ａ６１Ｐ　43/00　　１２１
Ａ６１Ｌ　27/00　　Ｖ
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　 9/00

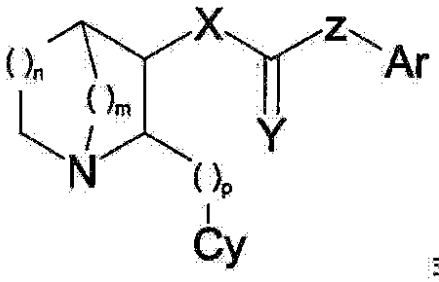
Ａ６１Ｐ　7/06
Ａ６１Ｐ　17/14
Ａ６１Ｐ　27/16
Ａ６１Ｐ　27/02
Ａ６１Ｐ　3/10
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｋ　31/439
Ａ６１Ｋ　45/06
Ｃ０７Ｄ 453/00

【手続補正書】
【提出日】平成24年9月26日(2012.9.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
選択的α7アゴニストを含む、神経新生の漸増に感受性のある障害又は状態を治療又は予防するための組成物。
【請求項２】
選択的α7アゴニストを含む、神経保護を提供するための組成物。
【請求項３】
選択的α7アゴニストを含む、中枢神経系の障害又は状態の進行を阻害するための組成物。
【請求項４】
選択的α7アゴニストを含む、神経変性疾患を治療するための組成物。
【請求項５】
α7アゴニストが、海馬中で前駆細胞の増殖を増大させる、請求項1から4のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項６】
障害又は状態が、学習及び記憶障害、癲癇、精神障害、鬱病、双極性障害、外傷後ストレス障害、神経変性疾患、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、前頭側頭葉型認知症、ハンチントン病、プリオン病、物質乱用、耽溺、依存症、頭部外傷、脳卒中、又は身体傷害から選択される、請求項1から5のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項７】
α7アゴニスト及びα４β2アゴニストを含む、誘発性認知障害を治療又は予防するための組成物。
【請求項８】
α7アゴニストとα４β2アゴニストとの二元薬理作用を有する単一化合物を含む、請求項7に記載の組成物。
【請求項９】
誘発性認知障害が、化学療法誘発性認知障害、放射線誘発性認知障害、虚血誘発性認知障害、自己免疫及び炎症性疾患誘発性認知障害、炎症誘発性認知障害、傷害誘発性認知障害、及び神経炎症の1種又は複数である、請求項7又は8に記載の組成物。
【請求項１０】
α7アゴニスト及びα４β2アンタゴニストを含む、鬱病、大鬱病性障害、耽溺、身体的依存、精神的依存、調節不全型食物摂取、又は双極性障害から選択される神経生物学的障

害を治療又は予防するための組成物。
【請求項１１】
α7アゴニストとα4β2アンタゴニストとの二元薬理作用を有する単一化合物を含む、請求項10に記載の組成物。
【請求項１２】
α7アゴニスト及びα7アンタゴニストを含む、多形性神経膠芽腫を治療又は予防するための組成物。
【請求項１３】
α7アゴニストが、全身投与される、請求項12に記載の組成物。
【請求項１４】
α7アンタゴニストが、局所投与される、請求項12又は13に記載の組成物。
【請求項１５】
α7アンタゴニストが、局部で投与される、請求項14に記載の組成物。
【請求項１６】
α7アンタゴニストが、外科的アブレーションと同時に投与される、請求項15に記載の組成物。
【請求項１７】
α7アゴニストを含む、患者に移植された幹細胞を宿主の病態から保護するための組成物。
【請求項１８】
移植のための1種又は複数の幹細胞、及び
1種又は複数のα7アゴニスト
を含む、CNS障害を治療するための組成物。
【請求項１９】
α7アゴニストを含む、幹細胞移植片の生存及び分化を高めるための組成物。
【請求項２０】
α7アゴニストを含む、海馬の神経新生を誘発するための組成物。
【請求項２１】
α7アゴニストが、選択的α7アゴニストである、請求項17から20のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２２】
組成物が、CNS障害を治療するためのものである、請求項17から21のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２３】
組成物が、幹細胞由来の臓器移植、造血幹細胞移植、骨髄移植、皮膚移植、がん、新血管新生、血管形成、脊髄傷害、心臓損傷、造血、脱毛、難聴、失明、視覚機能障害、先天異常、糖尿病、整形外科、及び創傷治癒の1種又は複数を治療するためのものである、請求項17から22のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２４】
α7アゴニストが1種又は複数の療法と共に補助的に投与される、請求項1から23のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２５】
療法が、治療剤である、請求項24に記載の組成物。
【請求項２６】
療法が、放射線療法、遺伝子療法、幹細胞療法、又は免疫療法である、請求項24に記載の組成物。
【請求項２７】
α7アゴニストが、鬱病を治療するためのSSRIと共に補助的に投与される、請求項24に記載の組成物。
【請求項２８】

α7アゴニストが、式1の構造：

【化１】



式1

[式中、
mは2であり、
nは1であり、
pは、1、2、3又は4であり、
Xは、酸素又はNR'であり、
Yは、酸素又は硫黄であり、
Zは、NR'、共有結合、又はリンカー種Aであり、
Aは、基-CR'R''-、-CR'R''-CR'R''-、-CR'=CR'-、及び-C≡C-から選択され、
Zが共有結合又はAであるときは、Xは窒素でなければならず、
Arは、非置換又は置換された、炭素環式又は複素環式、単環式又は縮合多環式のアリール基であり、
Cyは、非置換又は置換された5又は6員のヘテロ芳香族環であり、且つ該置換基は、アルキル、アルケニル、ヘテロシクリル、シクロアルキル、アリール、置換アリール、アリールアルキル、置換アリールアルキル、ハロ、-OR'、-NR'R''、-CF_3、-CN、-NO_2、-C≡R'、-SR'、-N_3、-C(=O)NR'R''、-NR'C(=O)R''、-C(=O)R'、-C(=O)OR'、-OC(=O)R'、-$O(CR'R'')_r$C(=O)R'、-$O(CR'R'')_r$NR''C(=O)R'、-$O(CR'R'')_r$NR''SO_2R'、-OC(=O)NR'R''、-NR'C(=O)OR''、-SO_2R'、-SO_2NR'R''、及び-NR'SO_2R''からなる群から選択され、
ここで、R'及びR''のそれぞれは、個々に、水素、C_1～C_8アルキル、C_3～C_8シクロアルキル、ヘテロシクリル、アリール、又はアリールアルキルであるか、或いは
R'及びR''は、一緒になって3～8員環を形成することができ、且つ
rは、1、2、3、4、5又は6である]
を有する化合物又はその薬学的に許容される塩である、請求項1から27のいずれか１項に記載の組成物。

【請求項２９】

α7アンタゴニストを含む、多形性神経膠芽腫を治療又は予防するための組成物。

【請求項３０】

放射線療法をさらに含む、請求項29に記載の組成物。